

### III 地域別情報

県では地域づくりの中心的役割を担う市町村に対して組織的な支援を行うことを目的として、県内6地域に地域県民局を設置しているが、地域ごとに産業や風土に様々な特色がある。

ここでは、地域の産業構造の比較やその特長を紹介するとともに、地域別の主な指標について掲載する。

地域県民局管内図

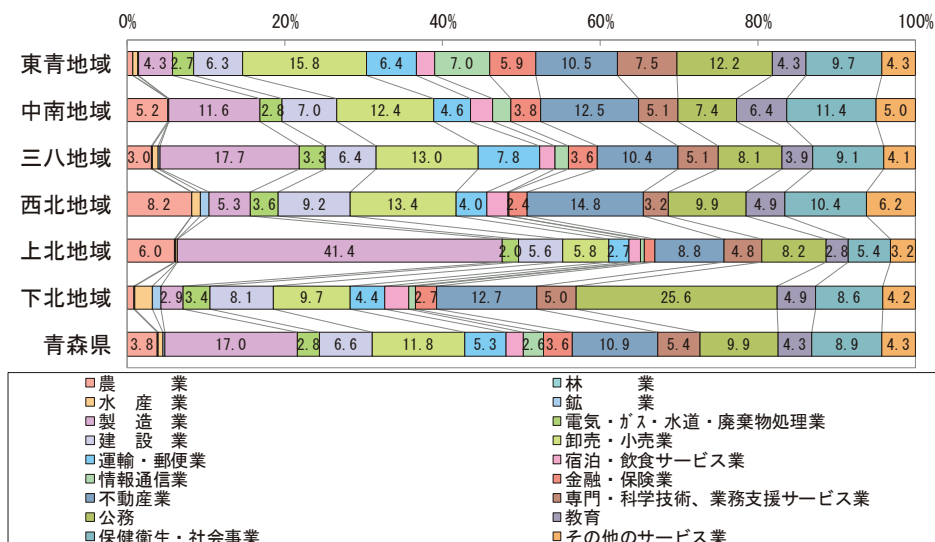


## 1 地域別の産業構造

各地域の域内総生産について、経済活動別に構成割合を見ると、上北地域を除いた5地域で第3次産業の割合が7割を超えており、特に、東青地域・下北地域では8割超と高くなっている。(図1)

他地域との比較で見ると、東青地域は「卸売・小売業」、中南地域は「保健衛生・社会事業」、三八地域・上北地域は「製造業」、西北地域は「不動産業」、下北地域は「公務」が大きな割合を占めている。

図1 地域別の域内総生産 (2015(平成27)年度)



※ 税等を控除していないため、合計は100%を超える。 資料：県企画政策部「平成27年度市町村民経済計算」

### ※産業分類

第1次産業：農業、林業、水産業

第2次産業：鉱業、製造業、建設業

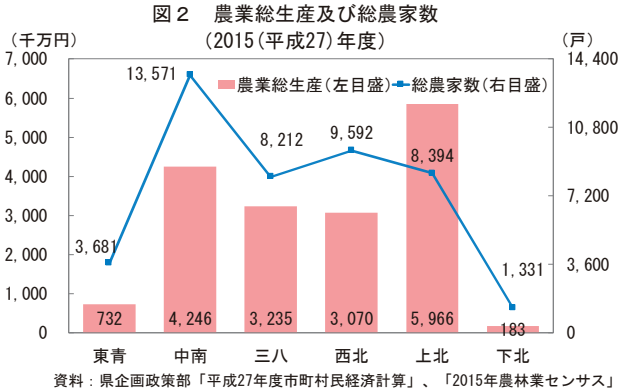
第3次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、建設業、卸売・小売業、  
運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業  
不動産業、専門・科学技術・業務支援サービス業、公務、教育、  
保健衛生・社会事業、その他のサービス業

## 2 産業別に見る地域の特長

### (1) 農業の盛んな中南・西北・上北地域

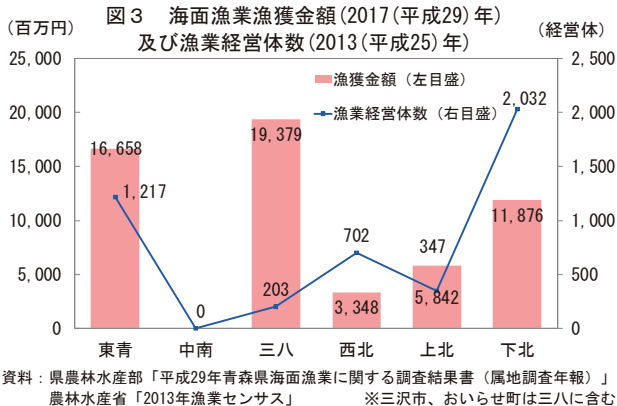
2015(平成27)年度の農業総生産は上北地域が最も高い。また、市町村別では、弘前市が240億8,000万円でも最も高く、次いで十和田市の131億2,800万円となっている。

一方、総農家数では中南地域が最も多く、次いで西北地域、上北地域の順となっている。(図2)



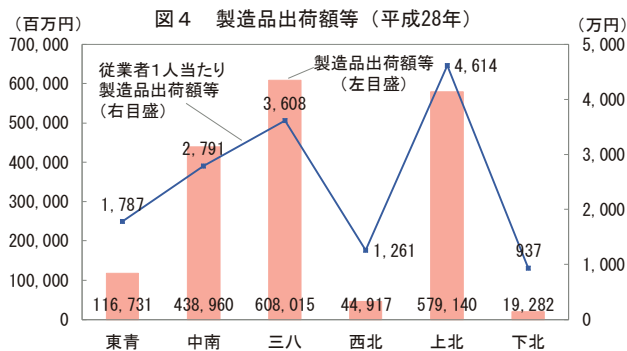
### (2) 水産業の盛んな三八・東青・下北地域

2017(平成29)年の海面漁業漁獲金額は、八戸港を擁する三八地域が約194億円と最も高くなったが、2016(平成28)年の約227億円からは約15%の減となった。また、漁業経営体数を見ると、下北地域や東青地域の水準と三八地域の水準の差が特徴的である。(図3)



### (3) 製造業を支える三八・上北地域

2016（平成28）年の製造品出荷額等では、ものづくり産業の拠点である三八地域が6,080億円と最も高く、県内の約33.6%を占めている。従業者1人当たりの製造品出荷額等では、2015（平成27）年と同様に上北地域が最も高い水準となった。（図4）



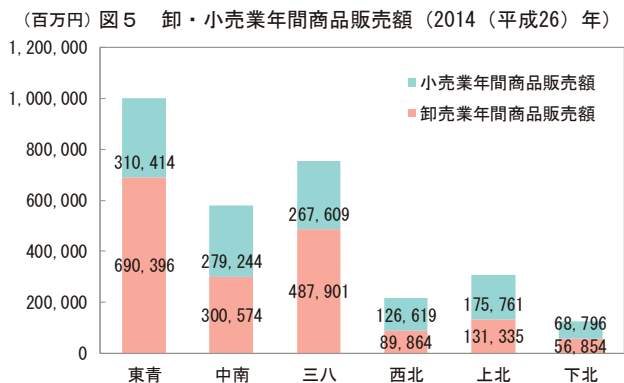
資料：県企画政策部「青森県の工業」  
※従業者1人当たり製造品出荷額等は、各地域における製造品出荷額等を従業者数で除して算出。

### (4) 商業の中心地・東青地域

2014（平成26）年の卸・小売業年間商品販売額をみると、東青地域が最も多く、このうち青森市が占める割合は約98%となっている。

三八地域に占める八戸市の割合は約93%、中南地域に占める弘前市の割合は約81%であり、青森市、八戸市、弘前市に商業機能が集中していることがわかる。

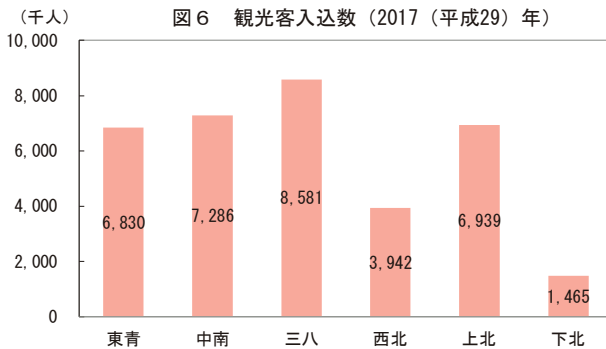
（図5）



資料：経済産業省「商業統計調査」

### (5) 観光客が多く訪れる三八・中南地域

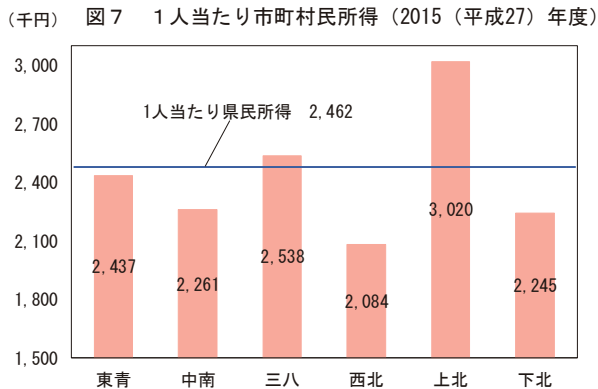
2017（平成29年）の観光客入込数は、おおむね横ばいで推移しており、地域別の比較では三八地域が2010（平成22）年から8年連続で最も高い入込数となった。（図6）



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

### (6) 1人当たり市町村民所得の高い上北地域

2015（平成27）年度の市町村民経済計算を見ると、1人当たり市町村民所得は、六ヶ所村、西目屋村、八戸市、おいらせ町の順に高い値を示しており、これらの市町村を擁する地域が高い値を示す傾向がある。地域別に見ると、上北地域の3,020千円が最も高く、三八地域2,538千円、東青地域2,437千円の順に続いている。（図7）

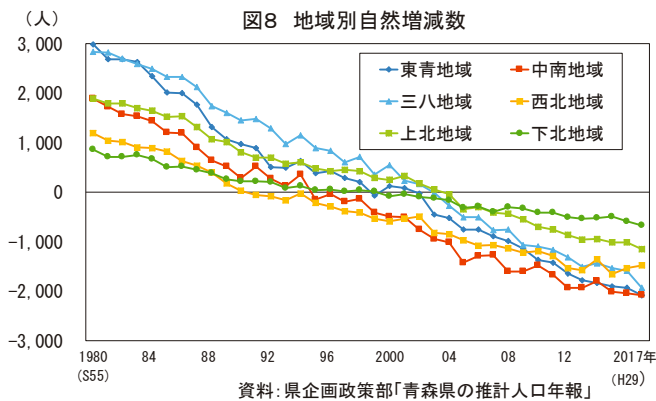


資料：県企画政策部「平成27年度市町村民経済計算」

## (7) 各地域の人口動態

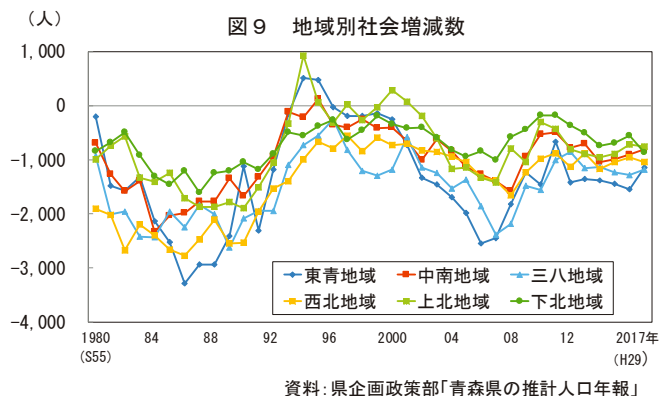
### <自然動態>

各地域の自然動態（出生数－死亡数）を見ると、西北地域が他地域に先駆けて1991（平成3）年から自然減となった。全県的に自然減に転じたのは1999（平成11）年であったが、三八地域は2003（平成15）年、上北地域は2004（平成16）年と比較的遅い段階で自然減となり、その後は、全ての地域において自然減が続いている。（図8）



## (8) 各地域の社会動態

各地域の社会動態（転入者数－転出者数）を見ると、特に東青地域や上北地域では、年ごとに大きな変化が見られ、経済情勢等による影響を大きく受けているものと考えられる。また、三八、西北、下北では1980（昭和55）年以降一貫して、2002（平成14）年以降は全ての地域において社会減が続いている。（図9）



### 3 地域の現状



## 東青地域

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
青森市	285,158	136,423	824.61
平内町	11,226	4,987	217.08
今別町	2,710	1,438	125.27
蓬田村	2,846	1,157	80.84
外ヶ浜町	6,219	2,940	230.30
合計	308,159	146,945	1,478.10

資料：総務省（人口・世帯数、2018(H30)年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2017(H29)年10月1日現在）

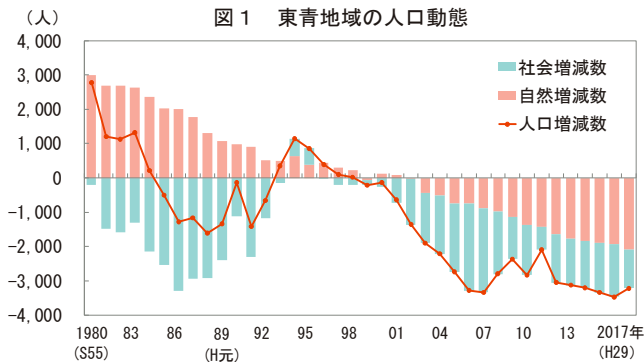
地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
青森						
平年値	10.4	27.7	-3.9	1,602.7	1,300.1	669
2018	11.0	34.0	-10.7	1,642.0	1,533.0	659

※平年値：1981～2010年の累年平均値

資料：気象庁

### ■人口動態

東青地域の自然動態は、2002（平成14）年以降、減少が続いており、減少幅が年々拡大している。社会動態は、2007（平成19）年以降は減少幅が縮小する時期もあったが、2013（平成25）年以降再び減少幅が拡大傾向にある。（図1）

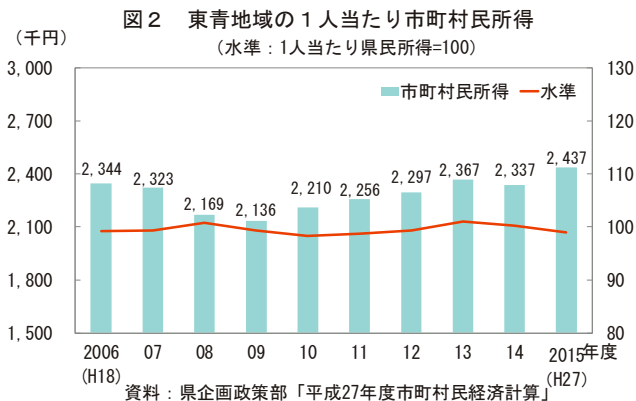


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

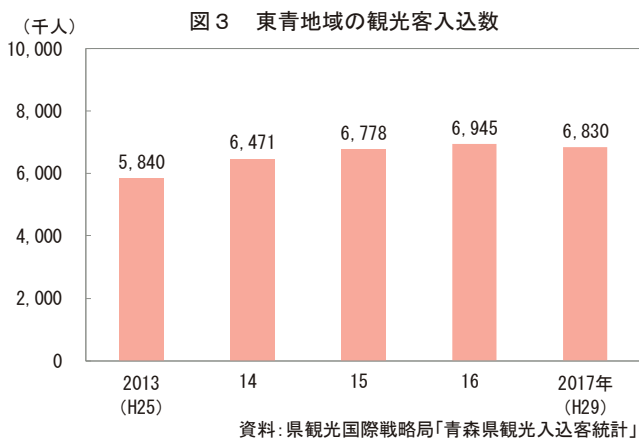
東青地域の1人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、2010（平成22）年度以降は概ね増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する東青地域の1人当たり市町村民所得の水準は、2013（平成25）年までは横ばい傾向にあったが、2014年（平成26年）以降低下している。（図2）



## ■ 観光客入込数

東青地域の観光客入込数は、2014（平成26）年以降600万人以上で推移しており、2017（平成29）年は年間約683万人となった。（図3）







## 中南地域

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
弘前市	172,444	79,543	524.20
黒石市	33,789	13,705	217.05
平川市	31,522	11,859	346.01
西目屋村	1,352	534	246.02
藤崎町	15,139	5,954	37.29
大鱒町	9,751	4,228	163.43
田舎館村	7,929	2,738	22.35
合計	271,926	118,561	1,556.35

資料：総務省（人口・世帯数、2018(H30)年4月1日現在、住民基本台帳）

国土地理院（面積、2017(H29)年10月1日現在）

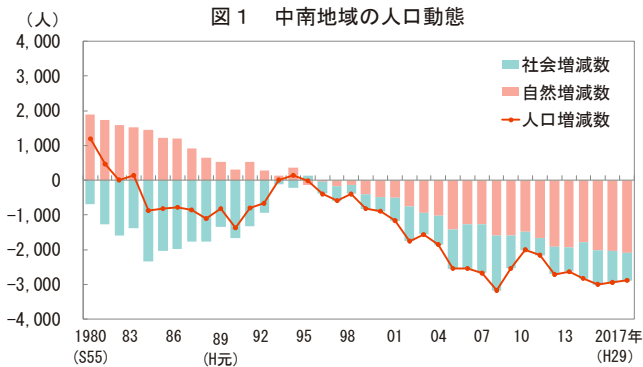
地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
弘前						
平年値	10.2	28.9	-5	1,597.5	1,183.1	748
2018	10.9	35.1	-11.0	1,701.9	1,608.5	532

※平年値：1981～2010年の累年平均値

資料：気象庁

### ■人口動態

中南地域の自然動態は、1995（平成7）年以降、減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。社会動態は2012（平成24）年以降再び拡大していたが、2015（平成27）年からは3年連続で減少数が縮小している。（図1）

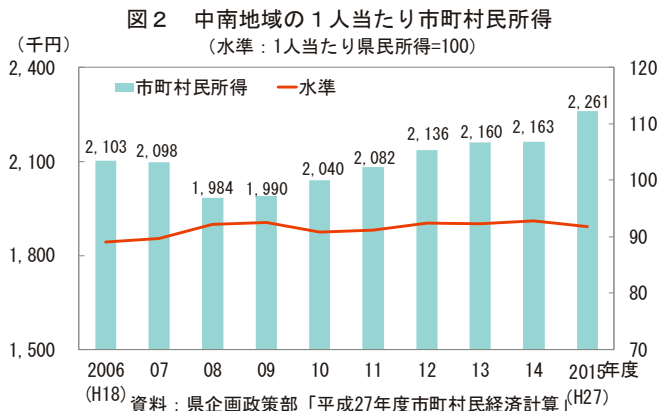


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

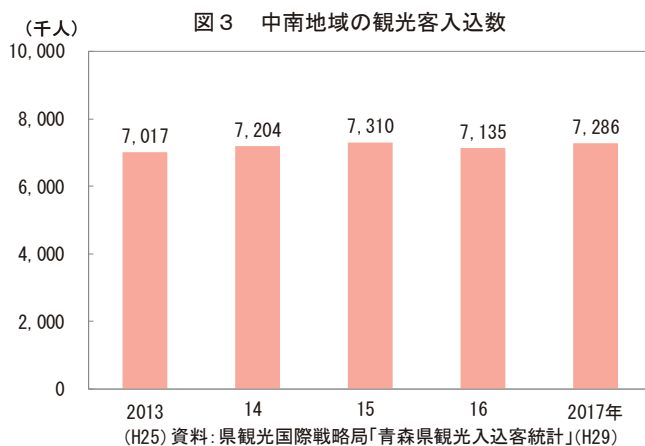
中南地域の1人当たり市町村民所得は、2009（平成21）年度から増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する中南地域の1人当たり市町村民所得の水準は、2009（平成21）年度以降はほぼ横ばいの状況にある。（図2）



## ■ 観光客入込数

中南地域の観光客入込数は、東日本大震災後大幅に減少していたが、徐々に回復し、2013（平成25）年以降は横ばい傾向にある。（図3）



## 三八地域



	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
八戸市	230,738	107,972	305.56
三戸町	10,236	4,315	151.79
五戸町	17,512	7,040	177.67
田子町	5,617	2,172	241.98
南部町	18,489	7,493	153.12
階上町	13,648	5,902	94.01
新郷村	2,549	936	150.77
合計	298,789	135,830	1,274.90

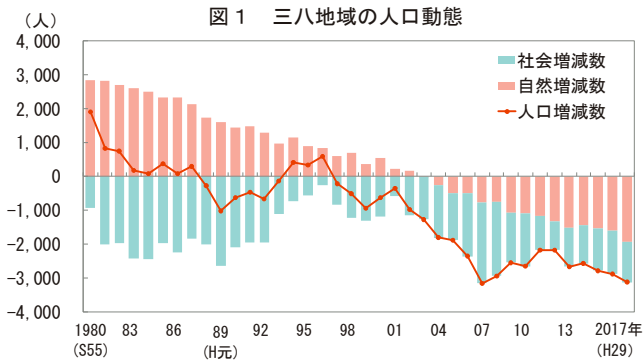
資料：総務省（人口・世帯数、2018(H30)年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2017(H29)年10月1日現在）

地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
八戸						
平年値	10.2	26.5	-4.2	1,860.4	1,025.1	248
2018	10.9	34.0	-9.6	1,879.4	1,177.0	110

※平年値：1981～2010年の累年平均値  
資料：気象庁

### ■人口動態

三八地域の自然動態は、2003（平成15）年に減少に転じて以降、減少幅が拡大傾向にある。社会動態は、2007（平成19）年以降は減少幅の縮小傾向が見られたが、2013（平成25）年以降は概ね1,200人前後での縮小が続いている。（図1）

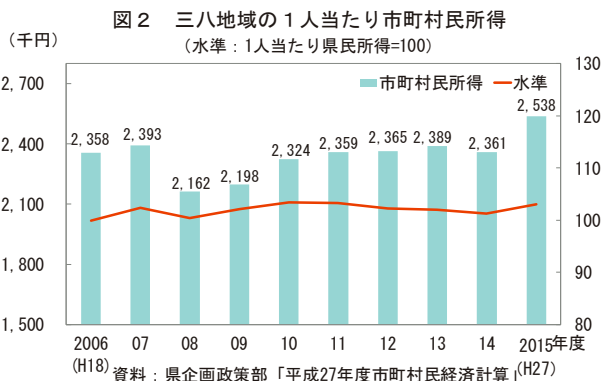


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

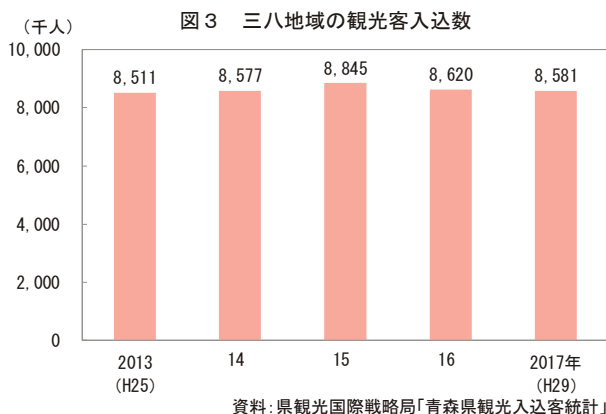
三八地域の1人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

また、三八地域の1人当たり市町村民所得水準については、近年減少傾向にあったものの、2015（H27）年度は上昇に転じている。（図2）



## ■ 観光客入込数

三八地域の観光客入込数は概ね横ばい傾向にあるが、2016（平成28）年以降は2年連続で減少し、2017（平成29）年は約858万人となった。（図3）





## 西北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
五所川原市	55,276	25,513	404.20
つがる市	32,911	13,521	253.55
鱒ヶ沢町	10,161	4,610	343.08
深浦町	8,359	3,759	488.90
板柳町	13,856	5,477	41.88
鶴田町	13,109	5,408	46.43
中泊町	11,302	5,124	216.34
合 計	144,974	63,412	1,794.38

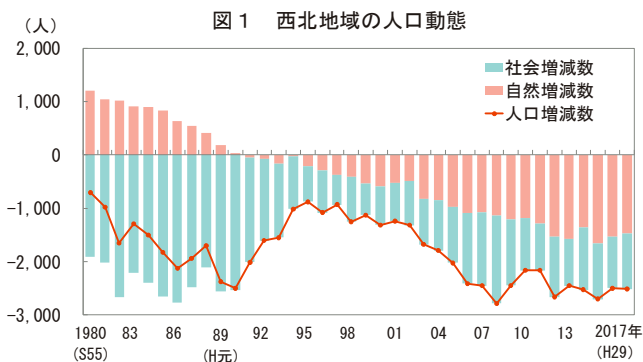
資料：総務省（人口・世帯数, 2018 (H30) 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）  
 国土地理院（面積, 2017 (H29) 年 10 月 1 日現在）

地点	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
五所川原						
平年値	10.3	28.1	-4.6	1,549.9	1,223.8	582
2018	11.0	35.1	-14.3	1,551.8	1,540.5	509

※平年値：1981～2010 年の累年平均値  
 資料：気象庁

## ■人口動態

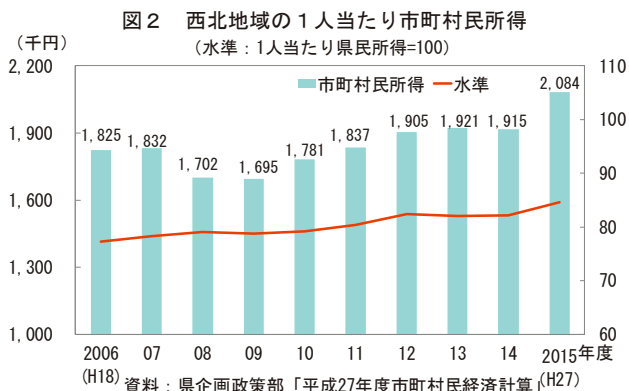
西北地域の自然動態は、県内で最も早い 1991（平成 3）年に減少に転じており、これ以降、年々減少幅が拡大してきている。社会動態は 2009（平成 21）年から 2011（平成 23）年までは減少幅が縮小していたが、2012（平成 24）年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図 1）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

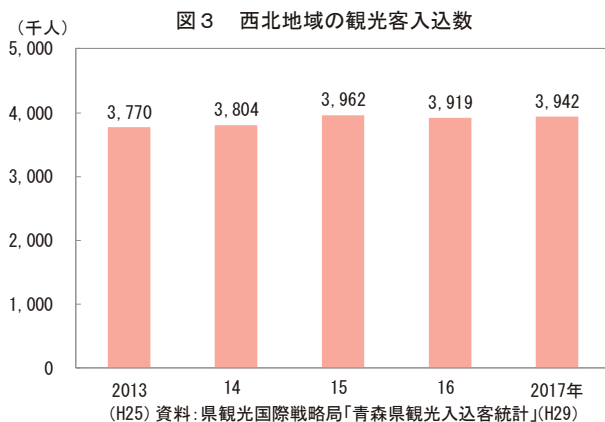
## ■ 1人当たり市町村民所得

西北地域の1人当たり市町村民所得は、2010（平成22）年度から増加傾向にある。1人当たり県民所得を100とした時の水準は他地域と比較して低い水準となっているが、近年上昇傾向が見られる。（図2）



## ■ 観光客入込数

西北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と思われる大幅な減少以降、おおむね横ばいで推移している。（図3）



## 上北地域



	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
十和田市	61,857	27,425	725.65
三沢市	39,804	19,096	119.87
野辺地町	13,450	6,533	81.68
七戸町	15,904	6,785	337.23
六戸町	10,981	4,380	83.89
横浜町	4,599	2,095	126.38
東北町	17,804	7,214	326.50
六ヶ所村	10,459	4,823	252.68
おいらせ町	25,152	10,192	71.96
合計	200,010	88,543	2,125.84

資料：総務省（人口・世帯数, 2018(H30)年4月1日現在, 住民基本台帳）

国土地理院（面積, 2017(H29)年10月1日現在）

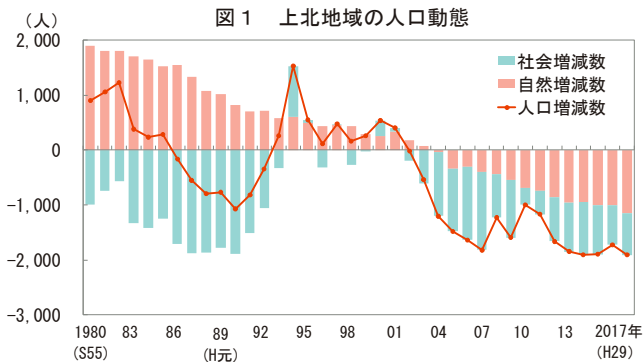
地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
十和田						
平年値	9.5	26.9	-6.3	1,774.7	983.3	437
2018	10.0	34.5	-15.7	1,812.2	1,225.5	207

※平年値：1981～2010年の累年平均値

資料：気象庁

### ■人口動態

上北地域の自然動態は、2004（平成16）年から減少に転じ、年々減少幅が拡大している。社会動態は2015（平成27）年からは2年連続で減少幅が縮小していたが、2017（平成29）年には再び拡大に転じ、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も減少数が増加している。（図1）



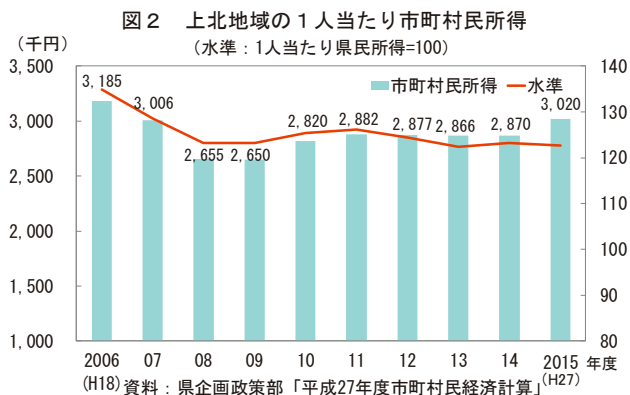
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

上北地域の1人当たり市町村民所得は、非鉄金属製造業の製造品出荷額等の増加などにより大きく伸びている。

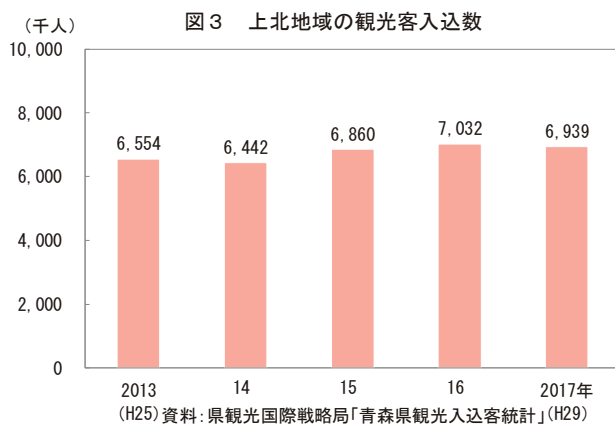
1人当たり県民所得を100とした水準は、2001（平成13）年度以降、常に1人当たり県民所得の水準を上回っており、他地域との比較でも最も高い水準にある。

（図2）



## ■ 観光客入込数

上北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と見られる減少があったものの、近年は600万人台後半から700万人台で推移している。（図3）





## 下北地域



	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
むつ市	58,285	29,150	864.12
大間町	5,381	2,498	52.1
東通村	6,547	2,826	295.27
風間浦村	1,961	938	69.55
佐井村	2,066	958	135.04
合 計	74,240	36,370	1,416.08

資料：総務省（人口・世帯数, 2018(H30)年4月1日現在, 住民基本台帳）

国土地理院（面積, 2017(H29)年10月1日現在）

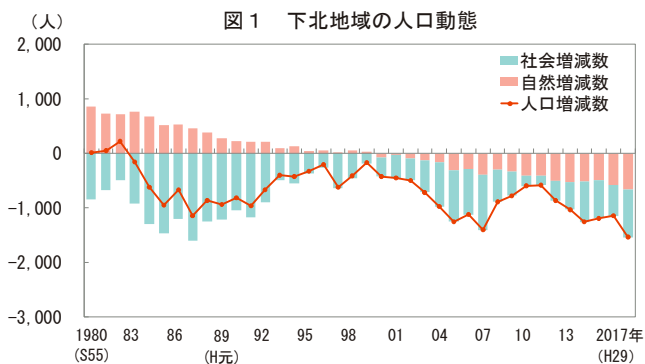
地点 むつ	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
平年値	9.5	25.7	-5.3	1,608.9	1,342.0	514
2018	10.2	32.1	-15.2	1,587.3	1,667.5	452

※平年値：1981～2010年の累年平均値

資料：気象庁

### ■人口動態

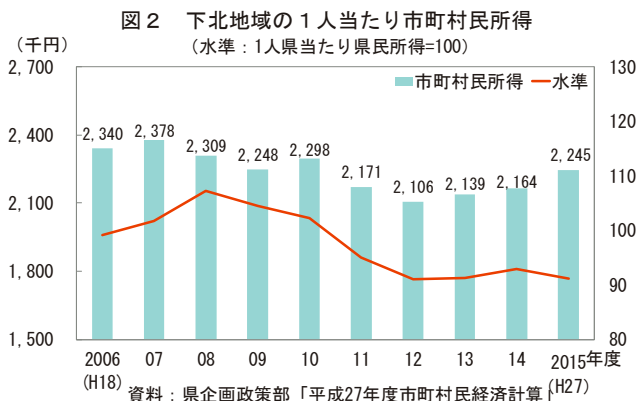
下北地域の自然動態は、2000（平成12）年に減少に転じ、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態は、2015（平成27）年から2年連続で減少幅が縮小したが、2017（平成29）年は減少幅が拡大に転じ、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も、減少数が増加している。（図1）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

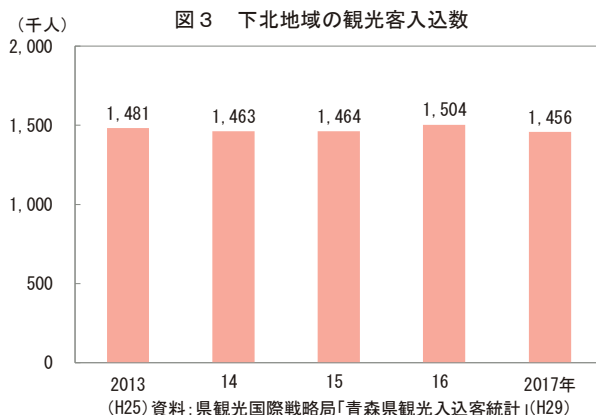
## ■ 1人当たり市町村民所得

下北地域の1人当たり市町村民所得は、2011（平成23）年度と2012（平成24）年度に減少が見られるが、その主な原因は企業所得の減少によるものである。1人当たり県民所得を100とした水準は低下傾向にあるものの、ここ数年は横ばいである。（図2）



## ■ 観光客入込数

下北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響で大きく落ち込み、その後は140万人台後半から150万人台で横ばい傾向にある。（図3）



## 4 地域のここが推し

### 東青地域のここが推し

#### 「ホタテ一番」でホタテ料理を食べ尽くす（平内町）

日本一の養殖ホタテ水揚げ量を誇る平内町の一番のおすすめはやっぱりホタテ料理。昨年5月にオープンした「ホタテ一番」では、ホタテを使った新鮮な料理を堪能することができます。

一番のおすすめは「平内ホタテ活御膳」。活ホタテの刺身&ステーキに、ベビーホタテ寿司&澄まし汁とホタテアイスがセットになった満足の一品です。ほかにも「ホタテおむすび&10種おかず籠盛り弁当」や「熱々！ホタテのラクレットチーズ焼き」「カツ丼風ジャンボなホタテ串揚げカレー」など計11種類、とても一度では味わい尽くせないほど豊富なホタテのメインメニューがそろっています。

「ホタテ一番」のある平内町「ほたて広場」には、青森市内から車で約30分で行けますので、ぜひ平内町のホタテ料理を味わってみてください。



ホタテ一番（上）  
ホタテ活御膳（下）

#### 島を渡り歩く絶景、高野崎たかのさき（今別町）

本州の北の最果てという龍飛崎が有名ですが、隣町の今別町にある高野崎も、あまり知られてはいない絶景ポイントです。高台から階段で一息に磯場まで下りられる岬の絶景も魅力ですが、一番のおすすめは、「潮騒橋」「渚橋」の2つの橋でつながる、まるで海の中に浮かぶ小島のような2つの磯場に歩いて渡れることです。四方に波が打ち寄せる中、圧倒的な空と海に囲まれていると、無人島を独り占めしているような贅沢な気分を味わうことができます。

高台にある食事処では、片手大もある採れたての岩ガキも味わえますので、ぜひ一度この絶景をご堪能ください。



高野崎（上）  
潮騒橋・渚橋（下）

## 中南地域のここが推し

### 弘南鉄道

中南地域を走る2路線のローカル線。弘南線は弘前駅から平川市、田舎館村を通り終点は黒石駅です。車窓からは、季節によってあたり一面緑色や黄金色の田園風景を楽しめます。大鰐線は中央弘前駅から大鰐駅まで走り、車窓からは、春はりんごの花、秋はたわわに実る風景を楽しめます。どちらも片道約30分で終点にたどりつくので、小旅行にぴったりです。



田園を走る弘南鉄道弘南線

### 刀匠 中畑國廣氏（田舎館村 刀の庵）

田舎館村役場の近くにある「刀の庵」では、鍛冶場の見学や日本刀の制作行程の説明を受けられます。真剣を手にかけて鑑賞できるのはここだけではないでしょうか。

中畑刀匠の説明は、日本刀に対する愛情はもちろん、クスリと笑えるユーモアに溢れています。お茶目であたたかい中畑刀匠に会いに行ってはいかがでしょうか。



日本刀を制作する  
中畑刀匠

### 農のふれカフェ Green Note（平川市高畑）

豊富な農産資源を生かして体験交流や食事の提供を行う「農のふれカフェ」の輪が広がっています！

平川市の藤田さんは、教員だった頃に知り合った農家から農産物に対する思いや生産の過程を知り、旬の食材を使った料理が味わえる Green Note を始めました。

お母さんと一緒に育てた自然栽培のお米や野菜、平川市特産の高原野菜や牛肉・桃などを使い、季節ごとに旬の食材のおいしさを活かした彩り良い料理に仕上げています。キッチンと食卓が近いので、丁寧な説明を受けられます。食後は、バリスタの認定資格を持つ藤田さんの入れたコーヒーと色鮮やかなスイーツをいただき、ゆっくりとくつろぎましょう。

生産者の想いにふれる楽しい時間を過ごしに、ぜひ訪れてみませんか。



キッチンと一体となった  
ステキな食事スペース

## 三八地域のここが推し

### 大注目！三八特産の農産物たち！！

#### ◆太さも甘さも魅力的！南部太ねぎ

南部町で育てられている郷土野菜、「南部太ねぎ」。名前にあるとおり、特徴はその太さです。一般的に流通するねぎの3倍ほどもあります。また、非常に柔らかいため、栽培は手作業で行われ、手塩にかけて育てられています。

加熱すると非常に甘く、「とろッ」とした食感ほ他のねぎでは味わえません！南部町道の駅などで販売されていますので、三八地域を訪れた際は是非ご賞味あれ。



南部太ねぎ

#### ◆神の実とも呼ばれる栄養豊富な果実「ガmazミ」



ガmazミの実

「ガmazミ」は、青森県南に生育している赤い小さな果実です。かつて、南部のマタギたちには「神の実」として狩猟時の栄養補給として大変重宝されたそうです。

時が流れ現在、「ガmazミ」はポリフェノール豊富な美容健康食品として注目を浴びています。ガmazミの実自体は非常に酸っぱいので、三戸町では飲みやすいようジュースやキャンディーにして販売しています。三戸町を訪れて、みなさんもガmazミの酸味を体験してみましょう！

#### ◆超濃厚！新郷村発無添加ヨーグルト

新郷村は県内で初めて酪農が行われた土地として有名です。そんな新郷村で長く愛されている「飲むヨーグルト」は、生乳の濃厚な味わいとシンプルな原料が特徴です。新郷村で採れた生乳しか使わず、加えるのはオリゴ糖のみ。保存料は一切使用していません。なにも混ぜないからこそ超濃厚な味わいを生み出せるのです！

ぜひ新郷村に足を運んで、この濃厚なヨーグルトを味わっていただきたいです。



飲むヨーグルト

## 西北地域のここが推し

### 魅力実感！奥津軽トレイル（五所川原市 NPO 法人かなぎ元気倶楽部）

津軽森林鉄道軌道跡と、日本三大美林のひとつである青森ひばの森を巡る、総延長 117km のトレイル（自然遊歩道）。津軽半島に 8 つのコースを設定し、トレッキング初心者から上級者まで幅広く楽しめます。現在は、このコースを活用し、ヘルスツーリズムの要素を加えた「DAZAI 健康トレイル」で地域の健康改善にも取り組んでいます。それぞれ異なった物語の 8 つのトレイルを歩き、知られざる奥津軽の魅力を感じてみてください。

#### □津軽森林鉄道とは？

青森ひばの積み出し手段として活躍した運材列車です。日本初・国内最長と言われ、その路線は奥津軽に毛細血管のように張り巡らされていました。現在も遺構や車両が残り、2018（平成 30）年 5 月に日本森林学会の林業遺産に認定されました。



旧津軽森林鉄道の鉄橋跡

### りんご産業を支えるりんご箱を守りたい。（板柳町 キープレイス）

りんごの栽培が盛んな本県において、その出荷を支えるりんご箱は大切な存在です。そのりんご箱を守るため、板柳町で新たな取組みが生まれました。



又幸のテーブルとツール

#### □又幸 -Matasachi-

キープレイスでは、又幸というプロジェクトを立ち上げ、りんご箱を再利用した家具を製造・販売しています。古箱の板材をつなぎ合わせて作られたテーブルとツールには、木箱本来の特色がにじみ出ています。市場関係者が書き込んだペンの跡やざらつきがそのまま残る、歴史が刻みこまれた味わい深い一品です。これらは又幸の Web サイトで販売されています。家具のほかには、日常使いやすい木箱を多種多様に取り揃えています。みなさんも暮らしにりんご箱を取り入れてみてはいかがでしょうか。

## 上北地域のここが推し

### 復元北前型弁才船「みちのく丸」は伊達じゃない！（野辺地町 常夜燈公園）

青森方面から下北方面又は、下北方面から青森方面に向かう途中に海岸通りを通ると、常夜燈公園に大きな船がそびえ立っているのにビックリして立ち寄ったという方も多いのではないのでしょうか。

北前船とは、日本海海運の主力となった商船です。大坂（大阪）を起点として、日本海沿岸の湊に寄



復元北前型弁才船「みちのく丸」

港しながら蝦夷地（北海道）まで年一往復で結び、各地で物資を売り買いつけて利益を上げる買積船として活躍した船です。最も活躍した時代は江戸時代から明治期で、青森県でも野辺地、深浦、鱒ヶ沢など北前船が寄港した地の文化、歴史、寺社などに多数の船絵馬、ゆかりの品が残り、当時の繁栄を今に伝えています。

復元北前型弁才船「みちのく丸」は、失われつつある日本古来の和船の建造技術や構造の発達過程を紹介するとともに、北前船の歴史、文化を後世に伝えるために、船大工 16 人によって建造された復元船です。

平成 17 年に完成し、平成 23 年には日本海文化交流事業において 10 道県 14 港を就航したほか、平成 25 年には東日本大震災復興支援として 5 都道府県 8 港を就航するなどの活躍をしました。

町は、北前船の一大寄港地として栄えた歴史と文化をもつことから、平成 26 年に「みちのく丸」の譲渡を受けました。「みちのく丸」は、平成 29 年 5 月公開の映画「たたら侍」やテレビドラマなどにも使用されており、平成 30 年 4 月に常夜燈公園へ陸揚げされています。

### 口復元北前型弁才船「みちのく丸」の次は、のへじ活き活き常夜燈市場に！

復元北前型弁才船「みちのく丸」のすぐ近くに、のへじ活き活き常夜燈市場があります。

水揚げされたばかりの活ホタテなどの新鮮な魚介類、旬の地場野菜や町の事業者自慢の商品などを購入でき、「のへじ」が十分に凝縮されています。

ぜひ、旅の休憩やお土産の購入に。



のへじ活き活き常夜燈市場

## 旨味や歯応えを高めた特別飼育「青森シャモロック ザ・プレミアム#6」 (六戸町)

マスコミなどにも幾度となく取り上げられ知名度向上中の「青森シャモロック」。県内6市町にある指定生産農場のみで育てられ、宮内庁下総御料牧場にひなが出荷されている唯一の地鶏です。

六戸町は、更に旨味や歯応えなどを向上させた「プレミアムな青森シャモロック」の生産に2016年度（平成28年度）から着手しています。通常の出荷日齢である100日を迎えた雄に、にんにく粉末等を加えた仕上げ飼料を更に30日間与え、飼育密度を減らし丁寧に飼育し、「青森シャモロック ザ・プレミアム#6（ナンバー・シックス）」として名付け、デビューさせました。通常飼育と比較して、旨味の目安となるグルタミン酸が約1.6倍、歯応えが1.4倍、健康に良いとされるリノレイン酸が2.6倍含まれます。



青森シャモロック  
ザ・プレミアム#6

### 口希少な青森シャモロック ザ・プレミアム#6を食す！

「滋味あふれる特産の野菜が引き立つ」奥深い味わいで、濃厚なのに雑味の無いすっきりした出汁が一番の特徴です。特産の野菜と一緒にあつあつの鍋料理でいただくと、肉と野菜の旨味が互いを引き立て合い、最後の一滴まで飲み干したくなります。また、肉はきめが細かく締まっていて、かめばかむほど肉汁が「ジュワ〜ッ」と口いっぱいに広がり、地鶏本来の旨味を感じさせます。

現在、六戸町で年間500羽のみの限定生産のため、町内飲食店や東京都内レストラン等数店舗のみの取扱いとなっています。

おススメは、町内にある「仕出し・宴会のもりとみ」さん。鉄板焼きや鍋物、炊込みご飯等のコース料理が人気で、青森シャモロック ザ・プレミアム#6の肉やお出汁の味をシンプルに味わうことができます。昼と夜どちらもお食事可能ですが、要事前予約です。

ぜひ一度、六戸町でしか飼育されていない、青森シャモロック ザ・プレミアム#6をご賞味ください！



仕出し・宴会のもりとみで供される青森シャモロックザ・プレミアム#6なべ



## 六ヶ所村の旬が集まる！！（六ヶ所村 特産品販売所 六旬館）

国道 338 号線バイパス沿い、スパハウスろっかぼっかや六趣醸造工房がある鷹架地区に 2018（平成 30）年 4 月にオープンした「六ヶ所村特産品販売所 六旬館」。村内の新鮮な食材や特産品が集まり、加えて、観光案内所としての役割も果たしています。



「六ヶ所村特産品販売所 六旬館」

### □「六ヶ所村の旬を味わう」

施設内に設置された生簀では、六ヶ所村で水揚げされたイカやヒラメ、ウニ等の魚介類を販売しています。また、長芋やゴボウの根菜類だけでなく、ほうれん草や白菜、キャベツ等の葉物類、そして、春にはワラビやタラの芽等の山菜も数多く取り揃えてあります。

食事コーナーの「旬食」では、特産品の戸鎖手打ちそばをはじめ、六ヶ所村で取れた野菜がふんだんに入った六ヶ所ちゃんぽん等、手軽に六ヶ所村を味わえるメニューを取り揃えています。



生簀を泳ぐイカ

## エネルギー関連施設を一望出来る軽登山！（六ヶ所村 ぼんてん山）

六ヶ所村役場から車で北に約 7 分、地域交流ホームのすぐ傍にぼんてん山の登山道入り口が見えて来ます。

標高 468m、往復約 3 時間と比較的登りやすく、展望所の前ぼんてんからは、村内のエネルギー関連施設を一望することが出来ます。



## 下北地域のここが推し

### 下北ジオパークへようこそ！（下北地域全域）

下北といえば、海や大地など大自然の営みによって生み出された素晴らしい景観が特長となっています。

これら多くの風光明媚な地を含み、2016（平成28）年に下北ジオパークは誕生しました。現在は保全、研究と共に、様々な魅力を地域全体で発信しています。

### 口有名景勝地だけではない下北ジオパーク

下北ジオパークの中には「恐山」、「仏ヶ浦」、「薬研」など、観光地として有名な場所もありますが、まだまだあまり訪れる機会が少ない、優れた景観の場所も多くあります。

例えば、長い年月を経て、波の力や石などにより削られた岩石と興味深い伝説が残る「ちぢり浜」。約12万年前以前の地層が、高さ約20mの露頭として海岸線で見られる「北部海岸」。落差300～500mの急峻な断崖となっており、海上からのみアクセス可能な「焼山崎」。観光船からは焼山崎の赤茶色と仏ヶ浦の淡緑色との美しいコントラストが楽しめます。これらはすべて、下北の雄大な自然を現す地形・地質遺産となっています。ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



下北ジオパークを構成するジオサイト

### 県内5番目のご当地グルメ！その名も「東通天然ヒラメ刺身重」（東通村）

青森県の魚「ヒラメ」の県内2位の漁獲量を誇る東通村では、2017（平成29）年7月1日から天然ヒラメをメインとしたおもてなしご当地グルメ、「東通天然ヒラメ刺身重」を村内3店舗の飲食店で提供しており、デビューから約1年で7,000食を突破しています。

### 口東通村に行かなければ食べられない絶品グルメ！

「東通天然ヒラメ刺身重」は、高級魚天然ヒラメを始め、タコや海藻など、東通村の新鮮食材をめいっぱい楽しむことができるコース料理です。東通村は津軽海峡と太平洋という2つの海に面し、寒流と暖流がぶつかり合っているため、沖合では多くのプランクトンが発生し、豊かな漁場をつくっています。ヒラメの良好な棲み処となる広大な砂地と相まって、豊かな環境に育まれた天然ヒラメのご当地グルメ、ぜひご賞味ください。



東通天然ヒラメ刺身重

## コラム② 見方変われば

以前読んだ本「ニッポンの評判 世界17カ国最新レポート」(今井佐緒里編 新潮新書)の中に次のようなエピソードがあった。

英国に住み始めた女性の筆者が、年配の人たちだけのお茶会に招かれた。勧められるままお茶を一口吸ると、彼らは静かに話し出し、語調はだんだん激しさを増してくる。彼らがかつて日本軍の捕虜だったことを彼女は知らなかったのだ。

ビルマで日本軍と戦った生き残りたちが彼女を取り囲んでいる。恨みと憎しみが詰まった古びた手記や日記や手紙も読まされ、字が小さくびっしり書かれていて読めない、と言え読んで聞かされ、じいっと全員で彼女を見つめている。彼女はお茶も喉を通らず、顔がひきつり、手足が震え、泣き出しそうに・・・しかし、彼女はある思いを抱く。少し長くなるが引用してみる。

《しかし、繰り返しその話を聞き、それらを読めば読むほど、その恨みと憎しみは、文化の違いと無知から来ていることもあることに気付いた。「腐った臭いスープ」とはみそ汁のことらしい。「ナイフもフォークも与えられず、みすばらしいスプーンで、米のシチューを食べた」というのは、日本兵が乏しい食料を捕虜と分かち合った証拠だ、と私には思えた。「寝台も与えられず、床の上にみんな一緒に獣のように寝かされた」というのも、日本兵が捕虜を大切に扱っていたように解釈出来た。日本に寝台で寝る習慣はないし、ほとんどの日本兵は野宿で地べたに寝たと聞いているからだ。「日本人は私の夫を殺し、埋めた所に呪文を書いた棒を立て、呪いをかけた」と訴えた老婦人もいた。南無阿弥陀仏とでも書いた墓標を立てて、読経をあげたのだろう。思わず「日本ではそうするのです。十字架も賛美歌も知らない日本兵の精一杯の手厚い葬り方です」と言ってしまった。》

近年、本県を訪れる外国人数が大幅に増えている。本県の2018年(平成30年)外国人延べ宿泊者数の伸び率(対2010年比、速報値、従業員10人以上の施設)は490.3%となっており、全国や東北他県の伸び率を大きく引き離している。今後も多くのインバウンド客が本県を訪れ、観光地はもとより、街中でも普通に見かけるようになるだろう。

引用したエピソードは戦争に関わる特殊事例ではあろうが、インバウンド客のおもてなしに関して示唆を含むような気がする。こちらがよかれと思ってしたことが、文化や生活習慣の違いから相手の誤解や不満を引き起こしてしまうことがあるかもしれない。「おもてなし」って、実は意外と難しい・・・。

しかし、めげてはいられない。県民一人ひとりがあおもり観光大使になった気持ちで、日本人、外国人を問わず困っている観光客を見かけたら恥づかしがらずに声がけてみよう。笑顔で接すればおもてなしの心は必ず通じるはずと信じて。

先日、中国北京からの来県客が帰る際に「青森で一番良かったことはどんな点でしたか?」と聞いてみた。自然・食・温泉・・・? その方がニコニコして言うには「青森は静かで、空気が最高においしい!」ほほう、空気までもが観光資源。青森観光奥深し・・・ですね。